

阪急京都線（洛西口駅付近） 連続立体交差化事業のあゆみ



阪急京都線の連続立体交差化
事業が完了しました！



建設局イメージキャラクター
けんくん

平成30年10月

市民による自治120年



京都市
CITY OF KYOTO

ごあいさつ



京都市長

門川 大作

「つながり・しごと・くらしを育てる西京区」。この理想の実現に向け、この度新たな一步を記すことができました。

本市と阪急電鉄株式会社が協力して進めてきた洛西口駅付近の連続立体交差化事業が、周辺道路整備も含めてついに完成の日を迎えました。これもひとえに、地元の皆様をはじめ、関係者の皆様方の多大な御理解と御協力があったからこそです。改めて心から感謝申し上げますとともに、この一大事業が完了した喜びを皆様と分かち合うことができますことを、誠に嬉しく思います。

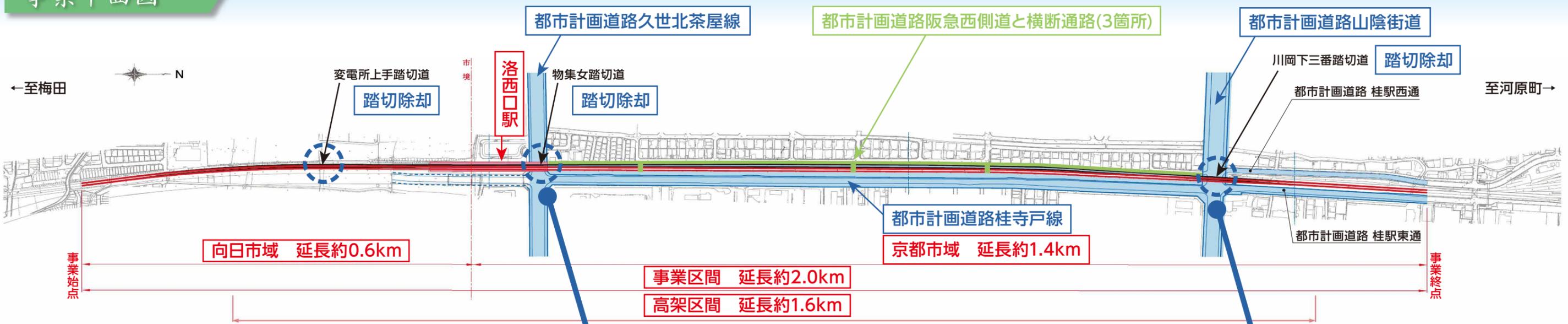
この事業では、3箇所の踏切を取り除いて、交通渋滞や事故の解消を図るとともに、周辺道路を整備することで、洛西地域の都市交通を円滑化させ、安全性を向上させることができました。加えて、鉄道で隔られていたまちの一体化を促進するため、阪急電鉄株式会社と連携し、高架下を活用して取り組む「洛西口～桂駅間プロジェクト」を展開。新たに誕生した高架下空間「T a u T (トート)」が、今後地域の更なる活性化に大きく寄与するものと確信しています。

今後とも、市民の皆様と共に汗して、暮らしやすく安心安全なまちづくりを全力で進めてまいります。引き続き、御支援、御協力をお願い申し上げます。

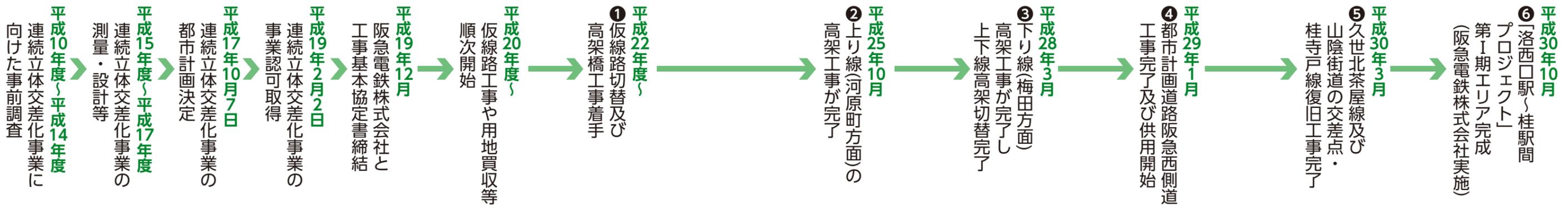
事業の概要

事業の種類	都市計画事業	
施工者	事業主体	京都市
	鉄道工事施工主体	阪急電鉄株式会社
区間	京都市西京区川島滑樋町～向日市寺戸町	
延長	約2km 京都市域 約1.4km, 向日市域 約0.6km	
除却踏切道	川岡下三番, 物集女 (京都市域) 変電所上手 (向日市域)	
総事業費	約242億円 (京都市 約223億円, 阪急電鉄 約19億円)	

事業平面図



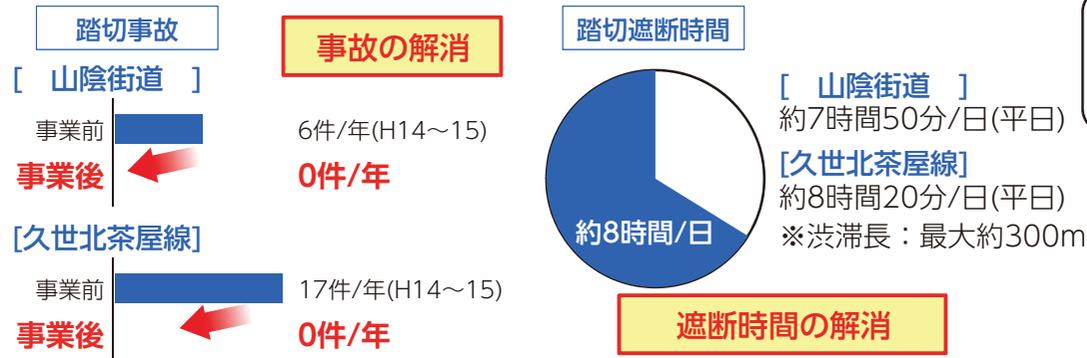
事業のあゆみ



事業効果

1 踏切除却による円滑な交通の実現

阪急京都線の京都市域の2箇所の踏切（川岡下三番踏切と物集女踏切）の除却により、踏切による交通遮断だけでなく、踏切事故の解消も実現できました。



鉄道が高架になって、事故も渋滞もなくなったよ！



2 自転車走行環境の整備

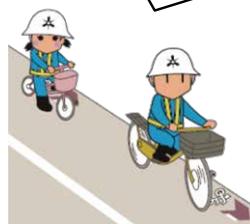
阪急京都線の高架化完了後、軌道西側に側道（都市計画道路阪急西側道）を整備しました。歩いて楽しいまちづくりの実現のため、自転車利用の方々と歩行者の方々が安全に通行しただけのよう、自転車歩行者道として整備し、平成29年1月に供用を開始しています。

なお、側道整備に当たっては、街路樹の植樹を積極的に行い、軌道西側の阪急西側道には、高木（ホンバタイサンボク）、中木（サザンカ等）や低木（ヒラドツツジ）、軌道東側の桂寺戸線には、高木（サトザクラ）、トウカエデ、低木（ヒラドツツジ）を植樹しています。

また、これまでまちが鉄道により東西に分断されていましたが、阪急高架部に3箇所の横断通路を整備することで、まちと人がつながり新たな発展が期待できます。



緑も増えだし、自転車に乗っても走りやすくなったよ！

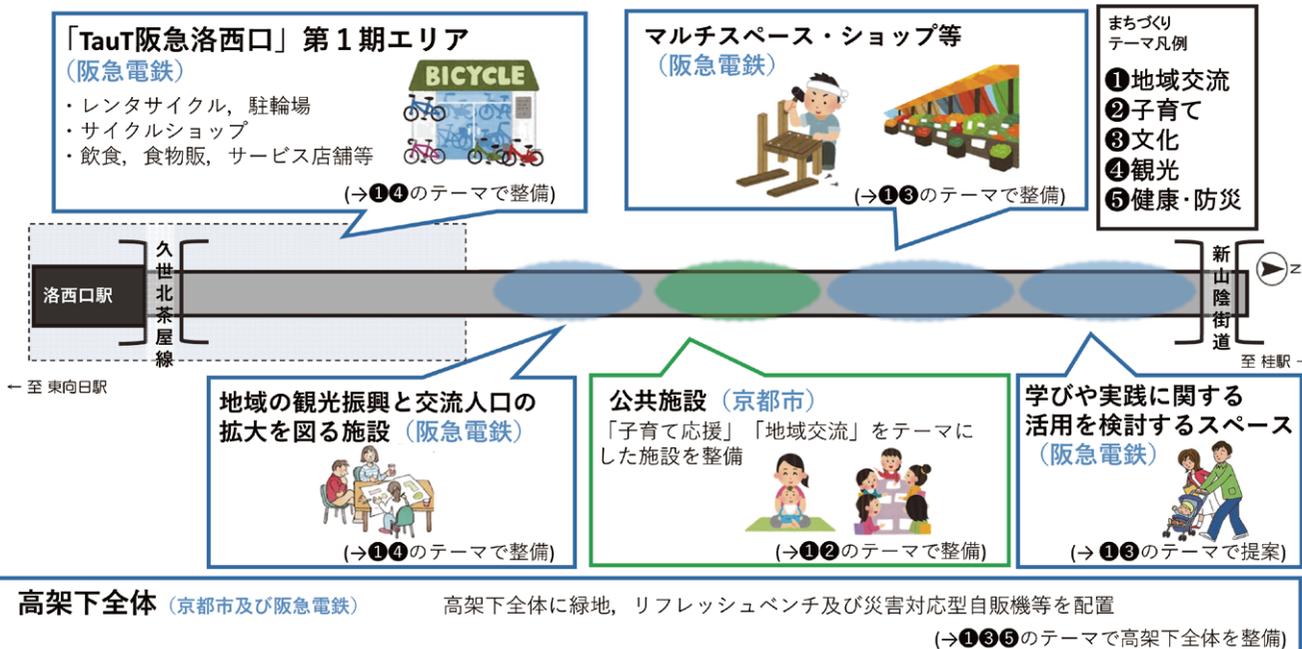


3 鉄道高架下の空間創出

京都市と阪急電鉄株式会社は、本事業により創出された高架下空間を活用し、西京区エリア全体の活性化を目指す「洛西口～桂駅間プロジェクト」を進めています。

平成30年10月には、阪急電鉄株式会社が整備する「TauT（トート）阪急洛西口」第1期エリアが完成し、この他のエリアについても、両方で順次整備・開業を進めてまいります。

長い期間にわたり、工事中は大変ご迷惑をお掛けしました。今後とも、高架下事業をよろしくお願いいたします。



事業完了写真

踏切の除却



歩行者空間・自転車走行環境の整備

